

■はじめに

先生方におかれましては、3 学期に入ったことで年度末の仕事が押し寄せてきていることと思います。1 年間の総括や、来年度の計画を立てている時期ということで、まず奈良市の教育ビジョンについてお話ししたいと思います。



■20 年先を見据えた教育

平成 21 年度に「奈良市教育ビジョン」を策定し向こう 10 年間の奈良市の教育の姿を示しましたが、平成 27 年度の法改正により教育委員会制度が大きく変わりました。すべての地方公共団体に首長と教育委員会で構成する「総合教育会議」を設置することとされ、昨年 6 月と 10 月の総合教育会議を経て「奈良市教育大綱」が策定されました。また、奈良市教育委員会ではこの大綱に基づいた計画として「奈良市教育振興基本計画」を策定いたしました。さて、私がここで論点としたいのは、これからの教育、これからの学び、これからの社会についてです。国の教育再生実行会議の第 7 次提言でも言及されていましたが、教育改革は少なくとも 20 年先を見据える必要があります。しかし、現在の教育に携わる人たちは現在の常識や価値観を基準にし、保護者世代は自分が受けた 20 年以上前の教育を基準に物事を考えてしまいます。そこには 40 年以上のギャップが生まれます。しかも、これから先の社会の変化は過去とは比べものにならないほど加速度を増すことは確実だということです。そのギャップをどう埋めるのか、そこに日々の教育活動の現実を見る必要があるということです。

「奈良市教育振興基本計画」

めざす子ども像

キーコンピテンシーや
21世紀型スキルを結集

↓

【具体的な姿】

- 指示がない時でも状況を把握し、自分のやるべきことを見つけ行動したり、何かに取り組むとき、他人に働きかけ、巻き込んだりすることができる。
- 初めて会った集団（人）と話をするときでも、自分の意見をもち、伝えたいことを周りに伝えるとともに、思いやりのある心をもって相手の考えにも耳を傾けることができる。
- 自他の生命を愛しみ、自分自身のよさや個性を見出すことができる。
- 目標をもち、大きな展望の中で自分を見つめ、行動することができる。
- 自分の価値観や地域の歴史や文化に誇りをもつとともに、相手の価値観や文化、歴史を尊重し、大切にすることができる。

知：自ら学び、考え、判断し、行動する子
徳：あたたかい心や公の心をもつ子
体：自他の生命と体を大切にする子
夢：手ごたえのある夢をもち、たくましく生きる子
誇：奈良で学んだことを誇らしげに語る子

オックスフォード大学のマイケル・オズボーン准教授は現存する多数の職種において 10～20 年後にコンピュータ化の影響を受ける確率を試算しています。日本に当てはめた結果は、労働人口の 49%が人工知能による自動化が可能だということです。エレクトロニクス見本市で公開された人間と卓球のラリーをするロボットや携帯電話売り場に立つロボット、自動で医療診断を行う人工知能の事例を見ていると、ヒトがコンピュータに取って代わられるという話が現実味を帯びてきます。また、世界のボーダレス化が進み、様々な価値観や生活基準を持った人たちと共に生活をする時代にもなりました。これからは、我々が生きてきた時代とはスピードも中身も全く異なることを皆さんに認識していただきたいので

す。それを踏まえて、我々は子どもたちにどのような力を付けなければならないかを考える必要があるのです。

■教員の在り方の転機

子どもたちに必要な力とは、OECDは「キーコンピテンシー」、文部科学省は「生きる力」と表現していますが、つまりは「これからの時代を生き抜くための力」ということだと思います。それには次の5つの力が必要になります。多様な他者と考えを共有することのできるコミュニケーション力、順序立てて論理的に物事を考えるロジカルシンキング力、仮説を立てながら物事を想像し次の行動を決めるシミュレーション力、相手の立場に立ち物事を考えるロールプレイング力、自分の考えを表現するプレゼンテーション力です。今皆さんが関わっている子どもたちはもう間もなくこれらに直面します。それは、大学入試の改革です。高大接続システム改革会議の「中間まとめ」には、これまでのマークシート形式に加えて、論述形式・記述形式を導入することが発表されました。入試での問われ方が変わるということは、求められる人材が変化していると捉えられます。選択肢の中から明確な答えを選び取るのではなく、課題を自ら見つけ出し、知識やスキルを組み合わせるその場で対応できる力が求められるのです。大学入試の大きな改革が行われるのは2020年、その時に受験するのは現在の中学1年生です。その後、新しい学習指導要領による教育を受けた学生が受験するのが2024年、現在の小学3年生です。大学入試だから無関係だと考

えず、目の前にいる子どもたちが、このような新しい問われ方をすることを認識してください。従来の教科書、黒板、チョークを使って知識の伝達のための授業をしたところで、子どもたちは現代の技術によって教員から教わる以上に広く深い知識や情報を手に入れることができます。教員が行う授業は、「何を学んだか」から「どのように学んだか」への転換が必要になります。これからの教員は、子



出展【思考力・判断力・表現力等を育成するための教員の資質・能力の向上について】の資料より（福井大学教職大学院 松木 健一氏）

どもたち自らが必要な知識は何なのか、課題は何なのかをチームで考えながら、集約・再構築し、発信する力を付ける為の協働探究の同伴者であり、探究的活動のファシリテーターであり、学習コーディネーターとしての役割が求められます。

■アイデンティティの礎を築く世界遺産学習

このような話をしていると、今まだ存在しない職業や事柄にチャレンジしていくことだけが子どもたちに求められているように感じられますが、そうではありません。今日のような、グローバル化が進み、先の見えない時代だからこそ、もう一方で大切にしなければならないことがあります。それは、ゆるぎない自分の根っこにあたるアイデンティティという



部分です。自分が生まれ育った地域を愛して、奈良で受けた教育を誇りに思うことを子どもたちにしっかり根付かせていく。そうでなければ、今まで出会ったことのない習慣や考え方に出会った時に、流されてしまったり、自分の生きる世界がとても狭いものになってしまうだろうと思います。多様化する価値観の中に身を置くことになっても、自分が生まれ育った地域への誇りが支えとなったら、自分を見失うことなくたくましく生きていけると思います。その根っこの部分を育てる営みが、世界遺産学習なのです。東大寺のお水取りのシーズンになってきましたが、1250年間一度も途絶えることなく続いてきた行法は世界にはありません。単なる火祭りではなく、東大寺が燃えたことが2度もありながらも、この行法を途切れさせることなく続けてきた。そこにあった思いに気付けるよう、子どもたちを導いてほしいのです。私たちが生まれ育ってきた奈良には本物があり大切にされてきたものがあると、宝物は偶然に残ったものではないことをしっかり伝えていただきたい。それが世界遺産学習の原点だと思っています。

教員の皆さんには、毎年お水取りの時期に二月堂の中に入って拝観する夜の研修をしてもらっています。これは奈良の学校の教員だからできる研修だと思っていますし、大切にしていきたいと思っています。二月堂の中は1200年前と同じ明かりしかついていませんが、そこで何をどのように受け取るかはそれぞれの受け止め方次第だろうと思います。ただ、人は感動を覚えると、それを他の誰かに伝えたくなるものです。本物を見てそれぞれ感じたことがあればきっと誰かに伝えたくると私は思っていますので、そういったチャンスがあれば是非参加していただきたいと思います。

■第10回小中一貫教育全国サミット in なら

もう一つ取り上げておきたいのは、小中一貫教育の取組です。国も予想していなかった大きな動きとなっている小中一貫教育の始まりは地方の小さな取組でしたが、奈良市は全国に先駆けて平成16年に田原小中学校で小中一貫教育を始めました。そして奈良市を含め、小中一貫教育の取組を進めていた東京都品川区、京都市、呉市が代表幹事となり全国連絡協議会を立ち上げました。今では40～50の地域が協議会に参加しています。品川区、京都市、呉市はこれまでに全国サミットを開催し研究発表を行ってきましたが、この度1月29日、30日に奈良市において第10回目の全国サミットを開催することとなりました。北海道から沖縄までほぼ全ての都道府県から、人数調整が必要になるほど多数の参加申し込みをいただいています。このように注目されている取組を、是非地元の奈良市の教員の方々に



は見ていただきたいと思っています。場合によっては、幼稚園の教員も共に研修できる場でもありますので、幼稚園に入園した子どもが将来どのような姿で15歳の春を迎えるのか、また、それを越えて高校、大学を出た先にこの子ども達にはどのような世界が見えているのか、一緒に議論できればと思っています。

■おわりに

私は、最終的に教育は人であると思っています。教員が変わって、学校が変わって、子どもたちを変えてゆく。そうやって変わってゆく教員こそが、子どもからも保護者からも尊敬され敬愛される先生であると思います。この姿は決してコンピュータやロボットに取って代わられるものではありません。子どもたちからあんな先生になりたいと敬愛され尊敬され信頼され頼りにされる先生の姿、それは時代の変化とともに変わっていきます。そんな姿を子どもたちに見せていただくよう、学校に戻られましたら先生方にこのことをお伝えください。そして、育てたい子ども像を共に話し合いながら、新年度の準備を進めていただければと思います。